

どうしてアセスメントをするの？

サクスシェアのケース会議で、一人の利用者の事例をもとに、アセスメントとサービス等利用計画案の総合的援助方針の内容について検討しました。

会を通して、多くの意見をもらい、自分が作成した利用計画案を振り返り、再度、作り直しました。「もっと~をしっかりと深く、聞くことが大切だった・・・」などと、反省することが多くありました。

そこで、アセスメントについて、しっかりと考え、私が行ったアセスメントと作成した利用計画案を見直したいと思います。

サービス等利用計画を作成するためには、必ずアセスメントを行います。

そもそもアセスメントとは？から考えてみました・・・

まず、アセスメントとは・・・

介護量の第一段階において、利用者が何を求めているのか正しく知ること、そしてそれが生活全般のどのような状況から生じているかを確認すること。援助活動を行う前に行われる評価。利用者の問題分析から援助活動の決定までのことを指し、援助活動に先立って行われる一連の手続きを指します。



次に、どうしてアセスメントを行うのでしょうか？



相談支援専門員が、当事者が希望している生活はどんなものか、どんなことで生活のしづらさがあるのか、それを解消するためにどんなサービスや支援を必要とするのか、自分でやれることと支援が必要なことは何なのかを見極め、当事者に必要なサービスの種類と量をサービス利用計画案として提示することが期待されているのです。

その意味で、アセスメントでは、当事者の言葉に表出されるニーズやデマンドだけに捉われず、隠れた生活ニーズを察知すること、必要に応じてチームアプローチの手法を活用して、個人情報保護に配慮しながら、当事者をよく知る関係機関等からの情報を集め、総合的かつ客観的なアセスメントを実施することが求められます。

では、**どのようなことに気を付けてアセスメントを行うことが大切なのでしょうか？**

大阪府が作成した「相談支援ハンドブック（障がい者編）」に次のような記述がありました。

1 訪問前に事前情報を収集する

アセスメントをより適切に行うためには、事前情報を収集することが重要です。さまざまな人や機関からの情報があり、その事前情報をつないでいくと、知りたいことが浮かび上がってきます。その項目をもとに質問することで、知り得たいことを漏らすことが少なくなると思います。ただし、事前情報を他者からもらう場合、その情報には他者の価値観が含まれている点に注意することが必要です。家族からの情報であっても鵜呑みにはせず、本人に確かめることが大切です。相手が専門職であれば、その専門職独自の価値観や考え方が含まれることも多いので、その点に注意を払います。事前情報は頭に入つつも、「自分の目と耳で確かめながら確認する」という気持ちでアセスメントしましょう。



2 「一緒に考えていく」という意識をもつ

「あなたは～できますか？」という一方的に聞いたり、質問項目を上から順番に聞き取ったりするとがアセスメントではありません。アセスメントでは、利用者が困っていることやそれを解決するための方法を利用者や家族と一緒に考えていくという意識をもつことが必要です。そのような意識をもってかかわることで、利用者や家族をエンパワメントすることも可能になります。また、1回のアセスメント項目すべてを聞くのではなく、相手のペースに合わせながら段階的にアセスメントを進めていくことも有効です。



3 具体的に聞く

アセスメントでは、利用者の生活状況をできる限り具体的に把握することが重要です。「朝食は食べていますか？」「お風呂は入っていますか？」という具合に、何をしているか」を聞くだけではアセスメント面接としては十分ではありません。大切なのは「何をしているか」の具体的な内容です。例えば「朝食は何時頃に食べていますか？」「どんなお茶碗で、どのくらいの量ですか？」「毎朝ご自分で調理をされるのですか？」という具合に掘り下げて聞きましょう。水分補給についても、「個人差はありますが、(500mlの)ペットボトルで2本分くらいが望ましいが・・・」などと具体的な目安を示すことによって相手も分かりやすくなります。



4 理由を考えながらアセスメントする

例えば、「一人でトイレに行くことができない」という話が出てきたとき、「一人で行けないのはなぜだろう？」と考えながらアセスメントをすることが大切です。「歩けるのにどうしてだろう？」「以前転倒したのが怖いからだろうか？」「時間帯によっては一人でできることもあるのだろうか？」など、いろいろな角度からアセスメントすることで、解決方法が見えてきます。その際、自分の思い込みによる推測は厳に慎み、客観的な事実を確かめることが重要です。

どうしてかな…？



参照：「相談支援ハンドブック（障がい者編）」大阪府

【自分自身の振り返り】

- 利用計画案を作成するために必要な情報を得るためのアセスメントととらえていなかったか？と問い直した。意識的ではないにしても、必要な内容を聞き取ることで頭がいっぱいで、さらに掘り下げて聞き直したり、「なぜ？どうして？」と理由を考えたり、再考したりすることが十分にできていなかった。
- 生活のしづらさや困りごとの中から、何を最優先に考え、支援につなげていくのかの判断や根拠が十分ではなかった。多くの情報を丁寧に整理することの重要性を感じた。
- 総合的援助方針には、「身体手帳5級を所持している」と記入していた。しかし、この方にとって、身体手帳5級の障がい「生活にどのような影響があるのか？」「どのような生活のしづらさがあるのか？」を具体的に把握していなかった。より詳細に聞き取りを行い、必要なサポートや環境の工夫などを考えることができると、より利用者にあった内容を考えることができたと思う。また、言葉の意味や内容をしっかりと吟味し、使うようにしなければならぬことを改めて考えることができた。
- 支援に「正しい、間違い」と判断はできない。しかし、丁寧にアセスメントを行うことによって、支援への根拠を明確にすることができる。相談支援専門員として、自分の経験や価値観だけで支援を考えるのではなく、他者に説明できる客観的な根拠をもつことが重要だと考えた。
- ひとつの事象であっても、新たな視点や違う角度から見ると、違うものが見えてくる。他者と協議するこ

とで、自分自身の視野が広がったり、考えが焦点化されたりすることができる。多くの方の考えを「素直に、謙虚に聞き、考える」、そして、「絶えず研鑽に努める」姿勢を大切にしていきたい。

以下の資料は、全国手をつなぐ育成会連合会が作成された資料を要約したものです。

5 ピクチャーとサービス等利用計画

5ピクチャーとは？

駒澤大学の佐藤光正教授が考案した相談支援の基本構想を描くための整理表です。

「こうでありたい将来の自分や生活」と「現在の自分や生活」とに相違（ズレ）があり、このズレが、困りごとやしたいことなどのニーズや想いを生むとの考え方（ミスポジション論）をベースに、5つの問い（ピクチャー）を本人と一緒に1回のシート（5 pic）に書き込み、本人のストレングスを活かした支援の方法を探っていくためのツールです。

5つの問いとは、Pic1：ストレングス Pic2：こうでありたいと思う自分の将来の自分や生活 Pic3：現在の自分や生活（現在と今までの生活状況） Pic4：ニーズとアセスメント（Pic2 と Pic3 とのズレで生じている困りごと/解決したい課題） Pic5：Pic2 に近づくための方法です。

5ピクチャーを書き込んでいくと、本人も本人を支援しているチームも、本人の思いを共有し、整理することができます。



具体的にはどのように整理していくのかな？

Pic1

ストレングスは、生きていく活力になります。ストレングスは、一見弱みに見えるものの中にも実は存在など、奥深いです。リフレーミングしながら本人と一緒にできるだけたくさん見つけましょう！

Pic2

今のままでいい！という方もいるかもしれませんが、本人の言葉を聞きながら、その裏にある思いを引き出し、希望する生活を描いてみましょう。遠い先でも、ちょっと先でも構いません。

Pic3

本人の今やこれまでの生い立ちなどのストーリーにしっかりと耳を傾け、本人の言葉を大切に書き出しましょう。

Pic4

想いの核は、情報の中から核心となる部分をより分けて、エッセンスをコンパクトに表現したものです。主語を「私」にして、「今の生活 Pic3」と「希望する生活 Pic2」のズレに着目しながら、本人の困り感を一緒に整理して、100文字程度にまとめましょう。

Pic5

希望する生活につながりを意識しながら何から始めたら私がしたい生活に近づけるのか、達成可能なポイントを見定めましょう。そして、希望する生活に近づくためにはどのような手伝いがあればいいのかを考え、書き出しましょう。

Pic4:わたしはこんなことで困っています！

100文字程度でズレの核心を表現する！

Pic2:こうでありたい



Pic3:今、こんな暮らしをしています！

今までこんな暮らしをしていました！

Pic5:近づくための方法・見通しを開く目標

希望する生活に近づくために困っていることやしてほしいこと！

・
・

Pic1:私のいいところ

私の地域のいいところ

私を応援してくれる人たち

ご本人

から聞き取ったことを、Pic1～Pic5 に落とし込むことによって、Pic3 の今の生活と Pic2 の希望する生活。こうありたいと思う状況に「ズレ」が見てくる。そして、Pic4 の生活ニーズや困りごと、Pic5 の希望する生活に近づくための方法や見通しを明らかにすることができる。



利用計画案にどのように活かしていくのかな？

5 ピクチャーズで、整理した内容をサービス等利用計画に落とし込んでいきます。

サービス等利用計画・障がい児支援利用計画								
利用者（児童）氏名			障がい支援区分			相談支援事業所サクスシェア		
保護者氏名	0		利用者負担上限額			計画作成担当者	田中 聡	
障がい福祉サービス受給者証番号						利用者同意欄（自署又は押印）		
地域相談支援受給者証番号	0							
計画作成日			モニタリング期間（開始年月）		0			
利用者及びその家族の生活に対する意向（希望する生活）	[Colorful blocks representing user goals]							
総合的な援助の方針	[Colorful blocks representing support strategy]							
長期目標	[Colorful block representing long-term goal]							
短期目標	[Colorful block representing short-term goal]							
優先順位	解決すべき課題	支援目標	達成時期	福祉サービス等 種類・内容・量（頻度・時間）	提供事業者名（担当・電話）	課題解決のための 本人の役割	評価時期	その他留意事項
1	[Red block]					[Green block]		
2	[Red block]							

ご本人の聞き取り、アセスメントを 5 ピクチャーズに落とし込み、まとめると希望する生活や思いや願いから必要な具体的な支援が見えてくる。当然のことだが、福祉サービスを利用するのは、希望する生活に近づけるためである。この 5 ピクチャーズを活用することは、サービスありきの考えではなく、ご本人を中心にした支援を考え、サービス等利用計画を作成する上で有効だと感じた。しかし、方法が重要なのではなく、その目的や原理、原則を理解し、日々のアセスメントを行うことが最も大切だと考える。相談支援員にとっては、複数人いる利用者の 1 回のアセスメント、1 つのサービス等利用計画かもしれないが、ご本人にとっては大切な大切なものである。悪い意味で業務に慣れてしまわないように、「利用者の方の良きパートナー、チームの一員でありたい」という初心を忘れずに業務を遂行したいと強く感じた。（相談支援専門員 高倉満彦）

